

研修報告

『機能分野別研修』

主催：機能分野別研修委員会

◆テーマ：「性の多様性（LGBTQ）について

～当事者の視点から医療・介護職の方に知ってほしいこと～

◇講師：LGBT 講演家・パーソナルトレーナー 船越 美紀氏

◇日時：2023年7月1日(土) 13:30～15:30 Zoomによるライブ配信

◇内容：カミングアウト経験について/LGBTQの基礎知識/社会の中のLGBTQ/当事者視点から医療・介護の場面で困ること、配慮が必要なこと

【グループワーク】

◇1 自分の職場で多様性の面で見直すべきところはありますか？

◇2 上記内容に関して、どのように見直すべきだと考えますか？

◇3 上記を達成するためには、まずは何から始めますか？

当日参加人数：14名（内、一般会員11名、非会員3名）

◇アンケートコメント紹介 ～一部抜粋～

■面接での姿勢（声かけのしかたなど）、すぐに実践に活かせるヒントをたくさん頂きました。職場内でも息苦しく仕事をしている方もいる可能性があることも知り、レインボーを身に纏うなどわかりやすい対応をしていきたいと思います。理解者になるため、引続き学びの場に参加していきたいと思いました。（総合：15年以上）

■社会の中の割合や理解を示そうとしている企業など社会にもたらしている影響について最近の動向を知ることができました。固定概念にとらわれない面談での表現や、他者と情報共有するときにアウティングの危険性をはらむ部分など改めて考えさせられました。また、所属する病院の所在地でパートナーシップ制度を導入していないこともあり、地域としてセクシュアルマイノリティへの関心は薄かったのではないかと感じました。（総合：3～5年）

◇まとめ

機能分野別研修委員長 安城更生病院 片寄慶

本研修では、性の多様性（LGBTQ）をテーマに当事者である講師から、医療・介護職に求めること、気づいてほしい事を講演して頂きました。当事者の目線では、呼び方の問題、トイレへの配慮問題、また医療・介護現場の様々な場面で、双方に戸惑いや混乱、心理的なハードルが生じることを学びました。相手は患者・家族だけであったり、同僚であったりするため、自施設の職場環境にも話が及びました。また、当事者にとってのカミングアウトへのハードルの高さ、アウティング（本人の同意なく、第三者がセクシュアリティについて暴露すること）でまねく危険性について、改めて認識させられました。まずは、MSWがALLY（アライ：LGBTQの人たちに寄り添いたいと考え、支援する人）になることで、当事者の心理的安全性を感じられる状況を作る第一歩になると思います。